

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (こども学科)

○令和5年度の前期科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項:内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・授業評価アンケートの結果を踏まえて、授業を行っている。
- ・2年次の「子どもの健康」について、1年次の「子どもの保健」「子どもの健康と安全」を踏まえて、重複されないよう検討しつつ、より専門的及び実践的事項を取り扱うこととしている。
- ・造形関連科目については、子どもの発達の側面や造形的側面について理解を深めるための講義を行っている。その上で、様々な素材や道具を活用した遊びや造形活動についての演習をグループで行い、教育・保育活動の展開について考える時間を設けている。学外実習での学びも生かして、実践的指導力の育成を意識して授業を展開している。2年間の学びの流れを考慮して構成している。

【課題・できていないこと】

- ・指導計画の書き方について、実習に関する講義で学ぶことが望ましい。実習に関して、連絡協議会の分科会のあと、それぞれの話し合った内容を全体的に共有する場を設けることが必要である(実習記録の作成にあたって、「鉛筆での作成」「パソコンでの作成」などが協議会(教育実習)にて挙げられていた)。

【その他・今後の検討事項等】

- ・教育実習や保育実習など他の科目と連携させながら、事務的な手続きなどを行う際に学生が困ることがないように改善する必要がある。
- ・実習にあたって、学生に対する指導内容などについて教員同士で整合性の確保に努めることが必要である。保育記録の作成(書き方)について、学生が学ぶ時期(今は、時期が遅い)を検討する必要がある。
- ・「教育相談」の場合には、学生の学びにとって適切な開講時期について検討が必要であると感じている。1年次に開講した方が学生の学びにとっては望ましいのかもしれない。

以上